

27日に「小平国分寺線」

宮沢賢治の誕生日にちなみ 賢治の本で当日無料



大陽系の感度をイメージした銀河鉄道バスの車体を説明する大橋さん

東村山市を中心に多摩地域で路線バスを運行するバス会社「銀河鉄道」(山本宏昭社長)は27日、小平駅と国分寺駅を結ぶ「小平国分寺線」(6・1時)を開設する。この日が童話作家の宮沢賢治(1896～1933)の誕生日であることちなみ、当日は賢治の本を見せると全路線で何回でも無料乗車できる特典も設定した。

山本社長は子供の頃からのバス好き。大型二種免許は、取得可能年齢の21歳で取り、試験も一発で合格。しかし大卒の未経験者を探用するバス会社はなかったため、家業の酒店

を継いだ。それでも夢を諦めきれず、99年に起業。会社の名前は設立年と人気アニメ「銀河鉄道999」にちなんだ。01年には東村山市のコミュニティバス事業者に選ばれ、08年には▽JR武蔵野線新小平駅から同市の明法中・高校を結ぶ「小平学校線」▽西武新宿線東村山駅から東久留米市の柳泉園グランドパークを経由し同駅に戻る「東村山青葉園多町線」の営業を始めた。

本数を減らせば客足は遠のく(業務推進室・大橋さん)。そのため、「葛飾柴又を訪ねる旅」などオリジナルのツアーを企画するなどして、収支を維持してきたという。

ただ、利益だけを追わないという考え方は変わらない。東日本大地震の際には岩手県など被災地に999人のボランティアを無償で運ぶとして、「銀河鉄道999」を運行。約40回、延べ2000人を運んだ。

今回の開業路線についても同様だ。西武小平駅南口から東京学芸大(小金井市)を経由して同駅に戻る「小金井循環線」をJR・西武国分寺駅の入り口まで延伸した形だが、地域住民や国分寺の商店街からの要望を受け入れて実現した。

新路線の運賃はこれまでと同じで全線一律大人170円、子供90円。平日は1日60本、15分間隔で運行する。平日の始発は小平駅南口が午前6時12分、国分寺駅入口は同6時37分。終バスは小平駅南口が午後8時57分発、国分寺駅入口は同9時22分発。

【斎藤三奈子】